

野登地区

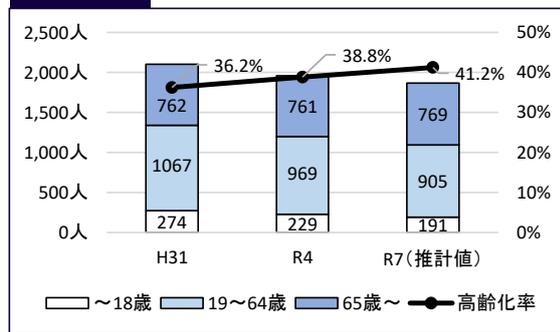
◆概要

	【位置図】	まち協名	野登地区まちづくり協議会		
		所在地	亀山市両尾町2785-6	電話	0595-85-0001
		地区構成	両尾町 安坂山町 辺法寺町		
		地域特性	<p>亀山市の北部に位置し(坂本・池山・安楽・平尾・原尾・辺法寺)の6自治会から構成されています。宮川や安楽川の清流に沿って集落を形成し、県指定文化財である野登山のブナ林があるなど、自然豊かな郷土であります。また地区毎に特色ある文化や伝統を育み人と人とのつながり、絆の強いまちを築いています。両尾町には宗徳寺、弥牟居神社、安坂山町には古来、亀山城主の祈願所であった野登寺があり、干手観音菩薩が祀られています。</p>		
面積	3,780.1ha	ホームページ	http://nonobori.onushi.com/		
めざす姿	一人ひとりが生き生きと輝き、互いに支えあう安心して暮らせるまち				
地域の誇り	ネコギギ(国指定天然記念物)の生息や棚田百選に選ばれた坂本棚田などの地域資源がある				

◆人口

	平成31年	令和4年	令和7年 (推計値)	増減	
総人口	2,103人	1,959人	1,865人	-144人	
人口密度	0.56人/ha	0.52人/ha	0.49人/ha	-0.04人/ha	
65歳以上	人口	762人	761人	769人	-1人
	比率	36.2%	38.8%	41.2%	2.6%
18歳以下	人口	274人	229人	191人	-45人
	比率	13.0%	11.7%	10.2%	-1.3%
外国籍	人口	25人	11人		-14人
	比率	1.2%	0.6%		-0.6%

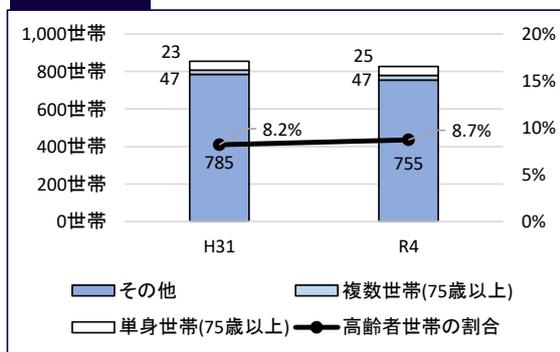
◆人口推移



◆世帯

	平成31年	令和4年	増減
総世帯	855世帯	827世帯	-28世帯
単身世帯 (75歳以上)	47世帯	47世帯	0世帯
複数世帯 (75歳以上)	23世帯	25世帯	2世帯
高齢者世帯割合	8.2%	8.7%	0.5%

◆世帯推移



◆介護保険認定者

	平成31年	令和4年	増減
要支援1.2	39人	53人	14人
要介護1~5	111人	105人	-6人
合計	150人	158人	8人

◆地域組織

	平成31年	令和4年	増減
自治会	6	6	0
老人クラブ	2	2	0
子ども会	5	5	0

◆福祉・医療・教育等に関する社会資源

民生委員・児童委員	5
福祉委員	16
介護保険施設・事業所	1
サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム	0
障がい福祉施設・事業所	1
児童福祉施設・事業所	0
病院・診療所	0
歯科	0
保育所	1
幼稚園	0
認定こども園	0
放課後児童クラブ	1
放課後子ども教室	1
子育て支援センター	1
学校(小・中・高)	1
乗り合いタクシー停留所	26

◆担当地域包括支援センター

亀山第1地域包括支援センター ぼたん

◆サロン活動

	平成31年	令和4年	増減
ふれあい・いきいきサロン	5	8	3
子育てサロン	0	0	0
コミュニティサロン	0	0	0

◆福祉委員会活動

◆構成員 まち協役員 民生委員・児童委員 福祉委員

◆活動内容

【交流活動】

しめ縄作り&料理教室の三世代交流を行っています。

【訪問活動】

75歳以上の一人暮らし高齢者に対し訪問配食を行っています。

【その他】

年間を通して子どもの登下校時の子ども見守りパトロールを行っています。



敬老会及び芸能文化祭



亥の子(伝統行事)

◆まちづくり協議会の恒例事業

- ・野登地区秋季大運動会
- ・三世代交流
- ・敬老会及び芸能文化祭
- ・子供神輿
- ・亥の子
- ・声かけ・あいさつ運動
- ・なんぼ歩いたかな

◆生活支援コーディネーターからのコメント

野登地区の人口は1,959人で、そのうち38.8%にあたる761人が65歳以上です。地域内827世帯のうち、8.7%にあたる72世帯が75歳以上のみで構成されています。また、地域内人口の0.6%にあたる11人が外国籍です。地域内の特色として、三世代交流が年に数回行われ、地域の住民であれば、子どもの顔と名前が一致するなど地域内での世代を超えた交流が盛んです。毎年、小学校の卒業式にあわせて、子どもたちと同地区に生育するミツマタを使った和紙で世界に一つだけの卒業証書を作っています。また、各町でサロンやグラウンドゴルフ、ユニカールなどの活動が盛んに行われるなど、住民同士のつながりが強い地域と言えます。車がないと買い物に行ったり病院受診が難しい人も多く、移動ニーズへの対応が必要である地域ではありますが、昔からのおすそ分け文化が継承されており、助け合える関係性が築き上げられています。人口減少に危機感を持っており、地域を好きになってもらい地元に戻ってきてもらえるような取り組みを検討されており、より魅力的な地域を目指して従来からのよきつながりを次世代へと継承していくことが期待されます。